

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2021年8月31日

有限会社シンセイ印刷 2回目の転換期迎え新たな挑戦

会社案内や伝票、チラシなどの印刷を手掛けるシンセイ印刷。印刷業界ではコロナ禍に加え、デジタル化が進みビジネスモデルの転換が迫られている。知的財産保護や、紙の用途開発で新市場開拓を目指す野田直人社長に聞いた。

Company Data

社名：有限会社シンセイ印刷

代表者：野田 直人

住所：愛知県一宮市猿海道 3-10-3

電話：0586-72-1974

URL：<https://ndprint.jp>

紹介金融機関：尾西信用金庫



最初の転換期

当社は父・忠夫が活版印刷会社の勤務を経て、一宮市で1979年に創業しました。繊維産業が盛んだった一宮市で、繊維関連企業の各種伝票や台帳のほか、生地見本をつるす紙製ハンガーを印刷し業容を拡大しました。

しかし、私が入社した2000年頃には、一宮市の繊維産業が当時の勢いを失い「このままではジリ貧になっていく」という危機感がありました。そこで既存の印刷設備を活かしつつ、コンピューターを導入し、新たに飲食店や美容院向けに販促用のショップカードやスタンプカードの印刷を始めました。その後、店舗の「販促」や「集客」のニーズの高まりから折込チラシやダイレクトメール（DM）などの販売促進に携わり、カレンダーなどノベルティグッズやダイレクトメールの制作、さらにはイベント用横断幕のデザインなど業務の幅を次第に広げていきました。



強みは提案力

当社ではデザイナーが10年以上同じ顧客を担当することもあり、顧客との深い関係性を構築しています。顧客の事情をよく理解しているため、ニーズを的確に捉えて顧客の期待を上回る提案を可能にするのが強みです。

コロナ禍前には、ある屋外イベントの運営団体から「横断幕の制作」について相談を受けたことがあります。「横断幕には文字だけでなく、ロゴマークを入れて、アイキャッチを高めませんか」と提案したところ横断幕だけではなくグッズにもロゴマークを入れることになり、イベント色が強まったことで集客力が上がりました。こういった事例はいくつもあり、つねに顧客の期待以上の成果を上げ信頼を得ることで、当社は成長してきました。

コロナ禍の変化

コロナ禍の影響で多くのイベントが中止となり、チラシの売り上げはコロナ禍前に比べ半減しました。一方でターゲットを絞った、DMやチラシの受注は増加しています。大規模な集客が難しい状況となったことで、デザインや提案のカスタマイズ化への対応が従来以上に求められています。

さらに、デザイン制作物を、Instagram、Facebook、TwitterなどSNS（会員制交流サイト）に展開する、2次利用ニーズも高まっています。当社はこうしたデータを2次利用する際の権利「頒布権」について明確なルールを策定し、新しい料金体系をつくる必要があると考えており、現在整備をしています。

コロナ禍で受注する印刷枚数が減る中、上記の取組により、付加価値を高めることで収益改善を目指していきます。デザイン品質を向上させると同時に、著作権の管理体制を整備することで、デザイン制作の業務を発展させることができると考えています。この流れはコロナ収束後も変わらないと思います。

紙の用途開発

もう一つ力を入れたいのは、紙の用途開発です。デジタル化の流れは止められませんが、印刷会社独自の紙の選び方や製本技術のノウハウを生かし新しい市場を創造できると考えているからです。

その第一弾として、特殊加工紙を使ったオリジナルブランドのノート「BUDDY（バディ）」（A5サイズ）を昨年開発しました。ふわふわした手触りの紙質で、「紙そのものの魅力を感じてほしい」と願いを込めました。品質にこだわり、一冊ずつ手作業で行っており、職人の高い技術力が詰められた商品です。

ほかにも、水をはじくノートを試作しています。これは、濡れても水が染み込まないうえ、ボールペンで書き込みできる、ゴルフ場のスコアカードにも使用されていた用紙の特徴を利用したものです。例えば、傘を持っていない時に雨が突然降り、かばんの中のノートが濡れることがあります。ノートを乾燥させたとしても、イ



ンクがにじんで読めなくなるほか、紙が波形になってめくりにくくなりますが、水をはじくノートがあれば防ぐことができます。大事な記録を残したいノートであれば、高価格高機能ノートの市場はあると思います。

また、ノート以外にも、光沢があり破れにくい特徴がある選挙ポスター用紙を何かに応用できないか考えています。

これまで培ってきたノウハウを生かし、アイデアを形にしていくことで道は開けてくると思います。